

1993年12月21日

台 湾 ニ ュ ー ス

第5212-6号

るのが国際慣例であると述べた。

葉副主任委員は更に、台湾は乗っ取り犯を通常の犯罪者同様に扱い、大陸に送還することはできないと指摘し、頻発するハイジャック事件で海基会と海協会が早急に事件の再発を防止する対策を考えて欲しいと語った。 (完)

《辜・汪会談の再開協議、唐海協会副会長近く台北入り》

(台北21日中央社) 焦仁和・海基会副董事長兼秘書長は本日、大陸海協会の唐樹準副会長の台北訪問を招請したのは今年4月の辜・汪会談で調印した「海基会と海協会の連絡と会談の制度化に関する協議」の中に両会の副会長は半年ごとに一回顔を合わせると決められているので、この取り決めを実行するためと述べた。

20日の中央社北京電は、唐副会長が間もなく台北入りすると伝えている。

焦副董事長は、唐副会長との会談で辜・汪会談を再度開くことについて意見を交換する積もりであると語った。

唐副会長は22日ごろ北京を出発し、台湾に5,6日滞在する予定であり、大陸記者団が同行する。しかし唐副会長の台湾訪問は現在行われている台北会談と関わりなく行われ、例え台北会談が成果を挙げなくても焦唐会談は開かれる。 (完)

《李総統の出国当面はない、総統府スポークスマン言明》

(台北21日中央社) 総統府の戴瑞明副秘書長兼スポークスマンは、李登輝総統近く東南アジアのさる国を訪問すると伝えられていることについて、国家の元首が海外を訪問することは特に異例ではないが、安全上の考慮に基づき一般に3,4月の準備期間が必要であるが、現在のところ総統府はまだ李総統の出国準備を行っていないと言明し、この報道を否定した。

ただ戴スポークスマンは同時に、現状から見てわが国が訪問する相手国が李総統を国家元首として待遇することを希望するのは無理であるため、今後は現実的態度でこの問題に対処したいと述べた。

(完)